

日時：令和元年5月13日（月）
午後1時30分から
場所：瀬戸市役所 庁議室
委員の参加者：全員

【議事】

1 市長あいさつ

2 委嘱式

市長から、各委員に委嘱状をお渡ししました。

3 委員の紹介

4 会長・副会長の選任

会長は、野尻紀恵氏、副会長は、前田清氏で承認されました。

5 諮問

市長から、会長へ諮問書が渡されました。

6 議題

(1) 会議及び会議録の公開について

会議、議事録、資料は原則公開、議事録は要点筆記としました。

(2) 子ども総合計画について

資料（策定途中のたたき台のため、一部非公開）に基づき事務局から説明し、委員から次のような意見が出ました。

（委員からの意見）

○子どもの最善の利益を大事にして、大きくなるまでを総合的に表していくので、素晴らしいと思う。

○指針としてアンケート結果をよく見て、組み立てていくのが良いのではないかな。

○総合計画は、アンケートデータを基礎にくみ立てるべきである。

○アンケートで、一番目についたのは、外遊びをしない子どもたちが高い数値を示していること。ネット依存も関係性があるのではないかな。文科省でも子ども白書の中で、外遊び、自然体験、

体験活動をと書いている。それらの対策として、皆さんと意見を交わしていきながら、総合計画を作っていきたいと思っている。

- 障がい者を対象とした就職を目指した訓練を受けている方の傾向として、高学歴の人で就職活動がうまくいかないなど、社会に出る第一歩のときにつまずいてしまう方が増えている傾向があり、何とかならないかと感じている。障がいのある子ども又は疑いのある子ども、若者への支援とあるが小さいころから障がいの特性のある方について把握をし、しっかりと支援できる仕組みができるとうれしい。
- 健康課を中心に、妊娠期から取り組んでいるミニママ教室や妊婦相談など、相談事業については充実してきており今後も実施してほしい。瀬戸市は、子育て世代の包括支援センターが設置されており、妊娠期から子育てにあたる地域の関係機関が連携して切れ目ない支援をするため、さらに体制を整備し充実してもらいたい。
- 外遊びをしない子どもの件は、引きこもりやニート、不登校も多い状況があったことで子ども若者支援部会を設置する。若者の相談窓口が整っていない、少ないとの結果もあった。それからの支援が途切れてしまうことのないよう、徐々に力を入れて整えていくことが必要かと思う。
- 「せとっ子すくすく相談」がだいぶ市民に認知されてきている。18歳以上の相談が増え、引きこもりやそういう人が、この窓口を頼りに相談してきているからと思う。この総合計画の中で年齢が上の人が相談できるよう、もう一つ窓口を作り2本立てにすることを考えてほしい。「すくすく相談」だと、小さな子向けの相談のように感じるので、名称変更するなどして、青少年からの相談をしやすくしてはどうか。
- 人は魅力のない街からは出ていってしまう。子どもに瀬戸に対しての愛着心が薄れてきており、子どもが高校生になったときにも愛着をもってもらえる、教育プログラムを考えるのも必要かと感じている。
- この木の絵を見たときに、赤ちゃん訪問でも子育てに悩んでいるお母さんが、今このことが重要だということが順序立てて決断することができるように思う。この絵は今後も子育てに関わるお母さんたちに役立つと思うので、共有してほしい。
- 目指す子どもの姿を父母に示し、先の見通しが持てるようにしてほしい。子どもを取り巻く環境、土壌の整備をしたい。
- 「愛知環状鉄道の中吊り広告などは多くの人が見るため効果が高いと思われる」の資料文書を読みました。実際に私も中刷り広告を見て、子育て世代に瀬戸の良さが幅広く伝わり、興味をもってもらえれば良いと思った。
- 被虐待、ネグレクト系の子どもたちが、引きこもり、ニート、不登園不登校になるケースをた

くさん見ることがある。ひとりの子をつなげて見ていく視点が必要。市役所の部署、園や小学校の先生などは、その子の一時期だけを担当して、先がちょっと心配と思いながら手放すことを繰り返している。皆さんと情報共有し、視覚化できる機会は非常にいいと思う。

○発達支援会議でいろんな人と話をしながら問題児童や問題家庭へのフォローアップやサポートをしていきたいと思う。今後とも話を聞きながら、よりよいシステムの構築に手を貸していきたい。

○保育に関することでは、保護者のニーズと子どものニーズがずれてくることがある。ワークライフバランスとか働き方のところにしっかりメスが入っていないとだめで、保護者のニーズばかり汲んでしまうと子どもの権利が侵害されるケースが出てきてしまう。

○子どもが成長していくほど相談できる場所が減っていくのは、相談できる場が足りない、先生には相談しにくいなどがある。ティーンエイジャーたちの相談できる場、居場所みたいなものがあればいい。

○父親の子育て支援では、出産の立ち合いとか、産後は非常に大変だから育休を取る必要性を伝える場が絶対に重要と思う。マタニティ教室やパパママ教室、そういったものを充実させるのが大事なのではないかと思う。

○子どもの発達や可能性を伸ばしていけるような計画になればいいかと思う。この計画は子どもを主語にして書いてほしいと思っている。

(3) 子ども・子育て支援事業計画の新規事業及び修正について 資料に基づき、事務局から説明し承認されました。

(4) 部会の設置について

① 保育部会について

設置が承認されました。

② 部会の委員の指名について

青山美千子氏、山本理絵氏、松田倫範氏、西村秀輝氏が委員として指名されました。

③ 部会への権限移譲について

本会議の役割のうち、特定教育・保育施設又は特定地域型保育事業の利用定員に関すること及び家庭的保育事業等の認可に関することの2つの事項については、専門的な事項であり、案件のつど審議する必要があるため、保育部会の決定をもって本会議の決定とみなすこととし、直後に開かれる本会議において決定内容を報告することで承認されました。

7 その他